

牛群検定通信 No80

～冬本番！防寒対策を再確認しましょう～

今年も冬本番となりました。乳牛は寒さに強いと一般に言われていますが、防寒が必要です。一般的な防寒対策の諸注意を紹介します。

1 子牛の管理

乳牛は、ルーメンで飼料を発酵させることで発酵熱を得ることができます。言わば、湯タンポを体内に持っているようなものです。しかし、子牛はルーメンが未発達で発酵熱を得ることはできません。すなわち、湯タンポは持っていないことになります。

- 1) 分娩：分娩房には清潔な敷料を十分に入れます。羊水で濡れた子牛は急速に体温を失います。清潔なバスタオル等で速やかに拭き取るようにしてください。夜間の自然分娩は特に気をつけてください。
- 2) 初乳：冬季でなくとも初乳の給与は大変に重要です。初乳は分娩後6時間以内に2リットル、12時間以内に体重の10%程度給与します。パスチャライザ等で殺菌したものを、39～42度に加温して与えるのが理想的です。
- 3) 保温：難産などで体力の弱っている子牛の場合は、湯たんぽ等での保温を行ってください。

- 4) 管理：子牛は寒さに弱いので、カーフジャケットなどのウオーマー等の使用も大変に有効です。カーフハッチ利用については、日当たりや風向き、雨水の浸入などの地形に気をつけます。
- 5) 敷料：糞尿で濡れた敷料は体温を奪います。敷料はたっぷりと与え、こまめに交換します。ニーテストなどで湿気をチェックしてください。
- 6) 換気：冬季であっても換気は必要です。換気が不十分ですと、ホコリやアンモニアの濃度が高まり肺炎などの呼吸器系の疾病を誘発させます。また、換気と送風は異なります。すきま風などが子牛に当たっていないか確認してください。
- 7) 飲水：雄子牛の場合、飲水が不足すると、尿石症を罹患することがあります。水も39～42度に暖めたものを利用するといいいでしょう。

2 経産牛の管理

経産牛は寒さに強いと言われていますが、次の点に注意してください。

- 1) 換気：子牛同様に換気は重要です。少なくとも日中は窓を全開にして、換気することが必要です。
- 2) 冬季の乳房炎：ディッピング剤で濡れた乳頭が寒風にさらされると、乳頭がヒビ等の肌荒れを起こします。そこから黄色ブドウ球菌（SA）に感染することがあります。

3 施設の管理

給水設備、バークリーナー、搾乳設備の凍結も気をつけてください。